

52

## ストーク・マンドヴィル病院： パラリンピック揺籃の地

柳澤 波香

青山学院大学／津田塾大学

パラリンピックの原型である、対麻痺患者によるアーチェリー大会は、1948年、英国のエイルズベリーにあるストーク・マンドヴィル病院（Stoke Mandeville Hospital）で開催された。

ストーク・マンドヴィル病院の創設は1830年代に遡る。イングランドでコレラが大流行した際、エイルズベリー教区とストーク・マンドヴィル教区が協同して設立した。コレラの終息後、暫時、感染症患者を収容していたが、その後一般病院となった。20世紀に入り、第一次世界大戦期にストーク・マンドヴィル病院は英国内の多くの病院と同様に戦傷者の収容病院となった。

1920年代半ば、ドイツでナチズムが興隆すると、開戦を予期した英国政府は救急医療体制の整備を急いだ。第一次世界大戦時に最も悲惨な状況にあった脊髄損傷患者のための治療体制の整備が始められ、神経学者リドック（George Riddoch, 1888–1947）がその中心となった。英国における脊髄損傷治療の先駆者のひとりとして見做されるリドックはアバディーン大学で医学を修めた、優れた臨床医、研究者であった。リドックは、第一次大戦の経験を踏まえ、1939年、脊髄および末梢神経損傷患者の治療拠点を国内に設け、ストーク・マンドヴィル病院を含む26箇所が指定された。脊髄損傷治療の経験を有する医師は少なく、リドックは治療拠点ネットワークの管理監督者として多忙を極めたが、ストーク・マンドヴィル病院に神経内科医として勤務した。

同時期の交戦国ドイツに脊髄損傷治療研究に情熱を抱くひとりの医師がいた。ユダヤ系外科医のグットマン（Ludwig Guttman, 1899–1980）である。グットマンはブレスラウ及びフライブルグで医学を学んだ後、ブレスラウに戻り脳神経外科の助手となったが、ナチスドイツによるユダヤ人排斥により1939年、英国へ亡命し、英国陸軍軍医ケアンズのもと、オクスフォード大学病院で脳神経外科および整形外科指導医として勤務した。リドックはグットマンの脊髄損傷研究、治療への熱意を知っていたため、友人である軍医ケアンズを通じ、ストーク・マンドヴィル病院で患者の治療、長期リハビリ、ケアを担当する意思があるかどうかを打診した。1944年3月、グットマンは自らの方針で治療、研究を主導できることを条件にストーク・マンドヴィル病院に移り、世界初の脊髄損傷治療センターを開設した。

グットマンは、脊髄損傷患者の治療に携わる医師の資質として、献身的であること、また医師間の所見、治療方針の差異について調整役を果たすことができる医師であることを挙げた。対麻痺患者の社会復帰を支援するため、理学療法、作業療法のスタッフと共に設備の拡充を図り、看護師のローテーションにも留意した。褥瘡、尿路感染、敗血症の予防のため、アメリカの医師モンローが提唱した2時間毎の体位交換を徹底した。グットマンは、棒切れを用いてボロ競技を行っていた院内の車椅子の患者らの姿をヒントに、対麻痺患者が可能なアーチェリーやボール競技を奨励した。スポーツによる身体機能の向上、競争心の萌芽は患者の社会復帰の促進に繋がると確信したためである。1948年7月29日、グットマンはロンドン・オリンピックの開会日に合わせ、16名の車椅子の患者によるアーチェリー大会を病院で開催した。大会は病院名に因み、Stoke Mandeville Gamesと称され、以後毎年開かれ、1952年には国際大会となった。1960年大会はローマ五輪に引き続いて行われ、以後、4年毎にオリンピックと同年に開催されるようになった。

2012年、ロンドンで再びオリンピック、パラリンピックが開催された折、ストーク・マンドヴィル病院の敷地内には「パラリンピックの父」グットマンの等身大の銅像が建立された。